

「FOUNTAIN」を用いたカテーテル的血栓溶解療法 (Catheter Directed Thrombolysis : CDT) の実態調査

小倉記念病院における「試料・情報の提供に関する手順書」に基づき、当院で保有する既存試料・情報を、他の研究機関へ提出します。詳細については、以下のとおりです。

【試料・情報の利用目的及び利用方法】

FOUNTAIN カテーテルは、血栓性疾患に対する CDT の治療成績を向上させ、出血性の副作用の出現を抑える目的で開発された多孔式インフージョンカテーテルで、日本では高頻度で使用されています。しかし、単一施設での使用実績は少なく、対象となる血栓性疾患も多岐に渡るため、実際の使用法は標準化されていません。そのため、CDT の有効性や安全性にも施設間で差異があると予想されます。さらに DOAC と呼ばれる抗凝固薬の登場により CDT の使用頻度は低下傾向にあると推察され、限定的な使用にとどまっています。しかしながら、動静脈血栓症や透析シャントの閉塞時などにおいては、引き続き主要な治療法として使用されているのも実際です。

そこで、全国の FOUNTAIN カテーテルの使用実績のある施設を対象にアンケート調査を行い、使用状況および治療効果に関する実態調査を行うことになりました。

この調査では、小倉記念病院において 2018 年 1 月から 12 月の 1 年間に FOUNTAIN カテーテルにより CDT を行った患者さんに関するアンケート調査票を SUBARU 健康保険組合 太田記念病院に郵送にて提供いたします。

【利用し、又は提供する試料・情報の項目】

SUBARU 健康保険組合 太田記念病院に提供する情報は、年齢、性別、病名、病気の原因、治療部位、使用薬剤、使用したカテーテルの情報、血液検査の結果、治療の経過／結果／合併症などです。個人情報漏えいを防ぐため、お名前、住所などの個人を特定する情報を削除した上で提供されます。また、これらの情報は、通常の診療で得られた診療記録より抽出しますので、新たに身体的及び経済的負担が生じることはありません。

【利用する者の範囲】

この調査は、SUBARU 健康保険組合 太田記念病院を研究代表機関として実施されます。全国の FOUNTAIN カテーテルの使用実績のある施設が参加予定ですが、収集された情報を直接的に利用するのは代表研究機関のみです。

【試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称】

SUBARU 健康保険組合 太田記念病院 副院長 兼 循環器内科主任部長 安齋 均